

川俣発で日本の農業を変えたい

ベルグ福島株式会社
代表取締役社長
中越 孝憲



ベルグ福島株式会社は、接ぎ木苗の生産、販売で国内トップシェアを持つベルグアース株式会社（愛媛県宇和島市、山口一彦社長）が掲げる「より生産者様の近くで、よりきめ細かく」のテーマの下、東日本の拠点として、平成26年に福島県川俣町に設立しました。

ベルグアースでは、長年培ってきた技術の集大成である接ぎ木技術、閉鎖型苗生産システム、生産・物流体制といった強みを活かして、連作障害や病害虫、環境ストレスに強く、農薬使用量を飛躍的に減らした健やかで安全、かつ、顧客に近い場所で育苗することでその土地にあった苗をお客様にお届けすることを可能としています。

本格的に稼働を開始したのは平成27年12月、出荷が始まったのは平成28年3月からで、初年度は約280万本の出荷、売上は約2億円となっています。常勤の社員及びパート従業員は約40名でそのうちの約7割が川俣町の方、2割強が福島市など周辺市町村の方、残り数名が出向者（県外）という構成になっています。生産している苗は、トマト、きゅうり、メロン、スイカなどで、販売先は北海道から関東までの東日本のJA、種苗店、大型の菜園などに出荷しています。

Q 1 福島県川俣町へ進出を決めた理由は？

－復興に貢献したいという気持ちと生産拠点としての福島県川俣町の魅力から

川俣町からベルグアースに対して熱心に誘致を勧めていただいたということと、震災後に福島で起こっている状況に対して会社として何か貢献できないかという思いをベルグアース社長の山口が抱いたことがきっかけでした。山口は農家出身のため農業に対する思いが強く、ベルグアースは閉鎖型苗生産システムを導入していますので、このシステムで生産した苗は安全・安心ですよとアピールすることを福島の皆さんとできればと考えたわけです。

さらにビジネス面からは、これまで接ぎ木苗の生産は主に西日本で行っていましたが、需要は東日本が多く、市場への近接性の観点から、東日本に接ぎ木苗の生産拠点を設けたいと考えていました。また、農業県である福島県、特にきゅうりの一大産地としての市場の魅力は大きく、そこに苗を供給する拠点を設置することは重要という判断から福島県川俣町に立地を決定しました。



地域の人に覚えて貰うため、最近看板を設置しました。



事務所です。

Q2 進出に際して苦労したことは？

－建設工事の遅れと当社に対する認知度の低さ

東日本大震災の復興事業が集中してしまったために人夫の確保が難しく、建設工事の工期が遅れてしまい、稼働が当初の計画から半年遅れになってしまったことが一番苦労したことです。また、経費面でも、茨城工場の実績で積算をしていましたが、資材高騰により予定をオーバーしてしまいました。

働き手の確保については、最初はどのような会社かという認知が広がらず、大きなハウスができて一体何をしているのだろう？という状況でした。従業員からの口伝えやJAさんを通じた見学会を催すなどにより、少しずつですが認知していただけるようになってきたと感じています。



種まきは目視で。“種見”という作業です。



日本最大級の閉鎖型育苗施設です！

Q 3

川俣町に進出してよかったことは？

－勤勉な人柄と川俣町の協力

働く方がすごく勤勉だと感じています。実際に、時間もきっちりされている、むしろ定時よりも早く仕事が始まりますし、作業能率も高いです。

経営面で考えると、産地が近いために生産者の方に直接見学に来て頂いたり、直接納品に伺えるなど、信頼関係を築きやすいところに位置していると考えています。見学の際には、多少品質に問題がある時など、ずばりと指摘されることも多々ありますが、逆にそれを糧にまた改善していけるという面もあります。

川俣町には、支援制度の紹介やイベントの案内などいろいろな情報提供をいただいています。イベントはベルグ福島のアピールの場にもなるので、非常にありがたいと思っています。また、町内向けのみならず、町外向けのアピールについても協力していただいています。



美味しい実のなる穂木＋病害に強い台木 ⇒ ベルグの苗。接ぎ木は全て手作業で行っています。

Q 4

今後の展望は？

－東日本の拠点として日本の農業をかえていきたい

地元自治体や国に今後期待することは？

－雇用の確保や販路開拓など、総合的な支援体制

東日本の拠点として、日本の農業をかえていくというのがベルグ福島を作った時に社長であった山口の思いです。農業をやっているから儲からないという問題がずっとあり、そのためには「農業の仕組みをかえていかないといけない」と考えています。そのひとつの方法として、地元の農家に一番近いところで、新しい技術を取り込んで利益をあげられる強い苗をつくって供給していきたいという思いを抱いて仕事をしています。

先ほどお話ししたとおり、川俣町には様々な協力をしていただいておりますが、やはり運営していく中で必要となる雇用確保や販路開拓など、一層支援体制が強化されることに期待します。

なお、川俣町では、企業を誘致して終わりではなく、立地後の人材の確保や知的財産権の戦略的活用など、総合的な支援を通じ、企業の成長は町の成長と捉え、ともに発展していきたいと考えていると伺っております。また、支援制度の一環として、パーマナント方式を採用しており、誘致に携わった職員は異動してもその企業の相談相手となっていただいているところです。



お客様に届ける苗を大切に植え込み、広いハウスの中をまんべんなく水やりをします。



この中で、キュウリやトマトの苗がすくすく育っています。是非気軽に見学に来て下さい。

企業名	ベルグ福島株式会社
ホームページ	http://www.bergearth.co.jp/index.html (ベルグアース株式会社ＨＰ内)
本社	福島県伊達郡川俣町大字羽田字曾利田10-1
設立	2014年（平成26年）
代表者	中越 孝憲
立地場所	本社に同じ

（取材：平成29年4月）